

開会あいさつ

井形 昭弘
(鹿児島大学学長)

本日ここに本学南太平洋海域研究センター主催のシンポジウム「東南アジアのイスラーム」が、本学において開催されることを心から嬉しく思います。ご参加下さった先生方、また準備に奔走された寺師センター長以下関係各位に深く敬意を捧げます。

いうまでもなく本学の南太平洋海域研究センターは、南方への門戸である鹿児島島の地に創設された学際的な研究センターであり、現在までに多くの実績を積み重ね、日本のみならず、南太平洋諸国からも高い評価を得ていることは周知の事実であります。

その南海研がその成果を世に問い、かつ全国から優れた同領域の専門家を招き一同で討論し、その実績を一般に公開する試みは正に本学の特徴を全国に発信し、開かれた大学、新しい大学の姿を示すものと言えましょう。特に今回のテーマは世界の注目の的であるイスラーム社会を理解する上の、学問的アプローチの一環であり、南海研の歴史の上でも極めて大きな意義を持つもの信じます。今回の討論の成果が世界に向け発信され、間接的には世界の中のイスラームの理解に大きく貢献するであろうことを期待致したいと思います。

ご参加下さった先生方に敬意を表し、この会が大きな成果を挙げ、その結果南太平洋海域研究センターが世界に向け大きな貢献をし、今後飛躍的に発展することを祈念して、私の挨拶と致します。